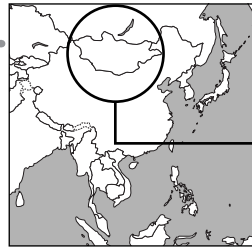


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Mongolia

モンゴル



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



ネルグイが通う 楽しい夏季幼稚園

辺境で遊牧生活をする家族

ネルグイは4歳。モンゴルの南の方、ゴビ地方に暮らしています。家族はお父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、そしてひとつ年下の弟の6人。家畜を100頭くらい飼っている平均的な遊牧生活をする家族です。ゲルと呼ばれるモンゴルの伝統的な組み立て式の家に住んでいます。

ネルグイの住んでいるところは、首都ウランバートルから汽車に乗って10時間。そこからさらに道路のないところを車で走って2時間以上もかかる、とても遠い平原地帯です。



ボランティアの保育士さんの 家庭訪問

近くに病院がないきびしい生活環境の中で、お母さんはお兄さんお姉さんを一生懸命に育てました。でもふたりは小学校に入るまで発育測定をしたり、絵をかいたり、折り紙をしたりするようなことをしたことがありませんでした。

でも、ネルグイはお母さんからいろいろなことを教えてもらっています。幼稚園の先生から訓



練を受けたボランティアの保育士さんが各家を回って、お母さんにやり方を伝えて家庭でできるようにしているからです。折り紙やお絵かきなど、子どもの心と知能が豊かに育つための楽しい遊びばかりです。「上手にできたでしょ！」折り紙ができるたび、ネルグイは大喜びでお母さんに見せています。

楽しい夏季幼稚園

ネルグイの住む地方では、ゲルとゲルがものすごく離れていて、近所どうしのつきあいなどほとんどできません。子どもたちは家族とばかり接しているので、人見知りする子どもが多いのです。同じ年頃の子もたちと一緒に過ごすことで自立心や社会性を養い、家庭で行っている遊びを補うため、2年前から夏季幼稚園が開かれています。期間は約2週間で、子どもたちは会場の施設に宿泊します。ネルグイは去年はじめて、弟と一緒に夏季幼稚園に参加しました。

色鉛筆で絵をかいたり、きれいな紙で折り紙をしたり、歌ったり、踊ったり、簡単な詩の朗読を覚えたり。ネルグイは17人の子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。

辺境の地域でも子どもを守り、育てることができる環境をつくってあげれば、平原での遊牧生活を続けていくことができます。子どもは元気に成長して自分の能力をのびし、夢に向かって進むことができます。

ネルグイは歌が大好きです。夏季幼稚園で覚えた歌を、大平原の空の下で毎日歌っています。



<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

ロシアと中国に囲まれて、日本の4倍の国土に約256万人の人口しかいません。国民の約半分は首都のウランバートルに住んでいると言われるほど、人口が集中しています。90年のソ連邦の崩壊により社会主義から市場経済主義に移行し、国内ではその結果もたらされる貧富の格差が新たな問題を生み続けています。

雄大な自然がもたらすむずかしい問題

モンゴルは東西南北で変化に富んだ自然や地形が広がっています。首都のウランバートルの中心は、社会主義時代にソ連の建築方法でつくられた堅牢な建物が多く、きれいな街です。でも、一歩郊外に行くと、地方から移動してきた人びとのゲル地域（スラム地域）が急増して問題となっています。



大平原のゲル

©日本ユニセフ協会

モンゴルの雄大な自然は、人びとの生活する環境のきびしさ、道路や交通手段の整備、情報伝達のむずかしさ、辺境の地域に住む人びとに関心がおよばないという問題、改善のための取り組みの困難さをあらわしています。

市場経済による生活の変化・貧富の差

モンゴルは90年のソ連邦の崩壊によって、社会主義から市場経済主義に移行しました。

それまでの社会の仕組みや考え方は崩壊し、収入を多く得た者が豊かになる国が変わったのです。地方で暮らしていた人びとは現金収入を求めて都会に集中するようになり、ウランバートルには人口の約半分が集中していると言われるほどです。でも、思うような仕事を得られず、生活がきびしくなり、子どもたちは暴力をふるわれたり、ストリートチルドレンになったりする原因になっています。

ストリートチルドレンになった子どもたちは犯罪に巻き込まれたり、みずから罪を犯したりする可能性が高くなります。ユニセフでは、都会のストリートチルドレンを守る活動とともに、地方からやってきて都会に住む人びとへの支援活動や、地方に住む子どもを守るためにその家族を支援する活動を行っています。

ウランバートルの保護センターの子どもたち
©日本ユニセフ協会

ユニセフでは、都会のストリートチルドレンを守る活動とともに、地方からやってきて都会に住む人びとへの支援活動や、地方に住む子どもを守るためにその家族を支援する活動を行っています。

モンゴル指定募金へご協力のお願い

ユニセフではモンゴルの都会のストリートチルドレンを守るため、保護センターの支援を行っています。保護センターでは子どもが安心して過ごすことができるように食事や衣服などを提供し、子どもの親を探します。勉強をしたり、職業訓練を受けることもできます。モンゴルの子どもを守る募金にご協力ください。

都会の問題を改善するために地方の生活を整えることが大切

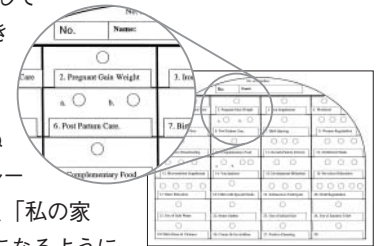
都会の問題の原因は地方にあります。原因を改善するために、ユニセフでは「家族が学び、みずから生活を改善する力をつける活動（Family Empowerment Programme）」を進めています。

ウツィーバーさん一家は家畜（馬、ラクダ、羊、山羊など）100頭を育てる平均的な遊牧生活をする家族です。「私のゲルをブルーにしよう」活動に取り組み、小さな子ども2人はボランティアの保育士さんの家庭訪問によって家庭教育を受け、夏季幼稚園にも参加しています。「健康に育って、しっかりと教育を受けてもらいたい」という希望をお母さんは持っています。

「私のゲルをブルーにしよう」活動

「私のゲルをブルーにしよう」という取り組みは、自分たちで生活を見直し、目標をたて、生活を改善していくものです。27の質問について自分で評価をして

いきます。「ちゃんとできている」項目は評価欄にモンゴルの人びとにとって貴い色であるブルーをぬります。「私のゲルをブルーにしよう」という意味は、「私の家族の生活が一番よい状態になるように改善しよう」という意味です。



ゲルの形になっている質問表

ボランティアの保育士さんと夏季幼稚園

辺境のきびしい環境でも子どもがすこやかに成長するために、幼稚園の先生から訓練を受けたボランティアの保育士さんが1人15家族くらいを受け持ち、各家を回って、お母さんに幼稚園で行われることを家で実施するように伝えていきます。子どもの発育測定や、折り紙など、子どもが心身ともに豊かに育つための活動です。お母さんがわかりやすいように内容を1冊のファイルにまとめて渡しています。夏季幼稚園はその補完として実施されるものです。広い平原のゴビ地方で、15家族を受け持つことは大変なので、ボランティアとしてやる気のある人を探すことが最も重要です。

夏季幼稚園の子どもたち
©日本ユニセフ協会

口座番号：00190-5-31000

加入者名 財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「モンゴル」と記入してください *送料は加入者負担としてください

●モンゴル学習用の資料キットの貸し出しを行っています
お申し込みは学校事業部へ ☎03-5789-2014